

## 【SEG生徒レポート2日目】

3/18の朝は少し曇り空から始まりました。最高気温は摂氏11℃ほど。テレビの天気予報はすべて華氏で表示されるので、普段摂氏で生活している私たちはさらっとみただけで気温がどれくらいか判断するのは難しいです。気温は茨城よりも低く、外に出るとダウンを着なければいけない寒さです。肌寒い中を歩き、バスに乗って世界銀行を目指しました。ポトマック川を渡り、進行方向右手の窓にはアメリカの朝の空が映っていました。ワシントンD.C.の朝は通勤の車で忙しいようで、少し車の流れが淀んでいました。しかし火曜日から木曜日は月曜日の比ではなく、車が動かなくなるほど混んでしまいます。職場につくのはカタツムリの方が早いのではないのでしょうか。世界銀行につくと職員用のエントランスではなく、来客用の入口に通されます。そこには手荷物検査場があり、まるで空港の安全検査のようです。手荷物検査場を通過するとパスポートを提示して入場用のIDを受け取ります。IDを職員の方(もちろん日本人ではありませんが)に提示して、プレゼンをうける会場まで歩いていきます。ふと水の音がして左を見ると滝があり、水は二階下のプールへと落ちていきました。聞いてみるとプールは入ることはできず、見る専だそうです。世界銀行では英語でリーさん、日本語で大谷さんからプレゼンがありました。かつて世界銀行は第二次世界大戦の戦後復興を目的として設立され、日本の東海道新幹線・東名高速・名神高速への支援も行いました。設立当初は44か国の加盟国しかありませんでしたが、現在の世界銀行は189か国の加盟国があり、主に発展途上国向けに、貧困国の支援と暮らしやすい地球の実現に貢献しています。多くの人が気になるのはどのような基準で世界銀行は支援先を選ぶのかということでしょうか。それはまず発展途上国と先進国との定義から始めなければいけません。世界銀行では先進国と発展途上国との違いを収入で判断しています。そして、世界銀行は世界銀行の加盟国に向けて、基本的に依頼をうけて初めて支援を開始します。依頼してきた国の中でも特に収入の低い国から支援を行うため、支援額の中でアフリカへの支援が最も多くなります。プレゼンの後は世界銀行で働く日本人職員の方々と談話をします。どの方も様々な背景を持っていてあまり共通のものはありませんが、あえて職員のなかで共通しているものがあるとすると、日本から派遣されてきたか、それとも直接世界銀行に入り職員になったかでしょうか。日本から派遣されてきた方は外務省や財務省から派遣されています。その後は記念撮影を済ませ、昼食をとります。昼食はビュッフェ形式で、重量が増えれば増えるほど価格は上がります。筆者は\$10(およそ¥1500)ほどでしたが、取る量を増やしすぎて会計が\$20(およそ¥3000)くらいになっている人もいました(どちらにせよ高いですけどね...)。昼食でも世界銀行の方とお話をしながら食事をとりました。話していた人の中には、4.5kmくらいの距離を自転車で行っている方もいて、聞くところによるとワシントンD.C.には自転車道が整備されているようです。昼食が終わった後は歩いてホワイトハウスへ向かいました。ホワイトハウスに到着した途端、道端で騒ぎ出した外国人がいました。非常にアメリカを感じました。かつてホワイトハウスへは簡単に入ることができたそうですが、現在は大変厳しい状況になっていて一般人はほとんど入れません。ホワイトハウス周辺散策の後は日本大使館を訪問します。日本大使館までの道のりは碁盤の目ではなく、部分的にバリののような放射状都市になっていてラウンドアバウトがいくつかあります。日本大使館のお隣はインドで、お向かいはトルコです。敵の敵は味方ということを感じさせられます。日本大使館も世界銀行と同様セキュリティに大変厳しく、手荷物検査場があります。さらにその奥には二重扉があって絶対片方しか開かないようになっています。大使館では元々山形の庄内町でALTをしていた方が昔の建物の案内をしてくれました。その建物には半世紀ほど前まで人が住んでいましたが、今は歴史的施設として保存されているそうです。大使館では金城さんからプレゼンがありました。金城さんは兵庫県出身の方で、若いころに影響をうけて教師の道へと進むようしていました。しかし紆余曲折あって教員を支える文部科学省という立場について、学習指導要領の改定にも携わっていたそうです。金城さんは長年大使館での勤務を希望していて希望届を出し続けていたにもかかわらず要望は通らず、人事に相談したところ2021年から大使館で働けることとなりました。大使館では教育広報を担当していて、国費留学生のサポートや、JETプログラムという日本にALTを呼び込む制度をより改善していこうとしています。金城さんが現在の職に就いたときはコロナ禍で、日本にALTの先生を送り込めない状況でした。しかし状況が緩和していくにつれて徐々に再開していったそうで、そのころから他の大使館との交流も再び行われました。金城さんの大切にしていることは「学びは一生もの」という考えであって、筆者は普段から目の前の課題にばかり目を取られてしまうのもっと長期的な視点も持ったほうが良いと痛感しました。大使館から出るとき、ガイドの方が手慣れた様子で出口の電動ゲートを操作していて驚かされました。その後はリンカーン記念堂に行きます。残念ながら工事中で一部

しか見れませんでした(Coming soon in 2026と書かれていました)、リンカーン記念堂から見えるワシントン記念塔も、水面を挟んで向こう側にありカメラの液晶越しにも美しく映っていました。夕食は中華料理をとりましたが、麻婆豆腐は想像以上に辛く、食べ物は総じて量が多くて食べきれませんでした。夕食の開始時間も午後五時と早く、また緯度の関係で夜になるまでが長くて19:00にやっと日が沈むので全く食べた気がしません。そのころにはすっかり晴れていて、太陽が窓のガラスを照らしている市内をバスで少し回ってPentagon Cityのスーパーマーケットに行きました。ホテルがある場所はCrystal Cityですが、そちらのほうにはスーパーのようなものはなく、Pentagon Cityのスーパーマーケットが最寄りです。筆者はいかにもアメリカ人が喜びそうなアイスと、水だけでゼリーが作れるJELL-Oを買いました。他の人は部活用にチョコを買っていたり炭酸飲料を買っていたりと様々でした。日が沈み切って朝のような寒さと晴れた夜空のもとにその日は終わりました。

写真は次ページ



